

# 韓国文学 セレクション

新泉社

〒113-0033 東京都文京区本郷2-5-12

tel. 03-3815-1662 fax. 03-3815-1422

website: <https://www.shinsensha.com>

twitter: @book\_shinsen



# 夜は歌う

キム・ヨンス 橋本智保 訳

四六判 / 320 頁 / ISBN978-4-7877-2021-4 / 定価 2,300 円+税  
装幀: 北田雄一郎

詩人・尹東柱の生地としても知られる「北間島（ブッカンド）」（現在の中国吉林省延辺朝鮮族自治州）。現代韓国文学を代表する作家キム・ヨンスが、満州国が建国された1930年代の北間島を舞台に、愛と革命に引き裂かれ、国家・民族・イデオロギーに翻弄された若者たちの不条理な生と死を描いた長篇作。韓国でも知る人が少ない「民生団事件」（共産党内の粛清事件）という、日本の満州支配下で起こった不幸な歴史的事件を題材とし、その渦中に生きた個人の視点で描いた作品。極限状態に追いつめられた人間は精神の自由を保ち続けられるのか、人間は国家や民族やイデオロギーの枠を超えた自由な存在となりえるのか、人が人を愛するとはどういうことなのか、それらの普遍的真理を小説を通して探究している。

◎ 盛田隆二氏評（共同通信配信）  
「詩情豊かな文体に引かれ、手に汗を握って読み進めた。」



# 舎弟たちの世界史

イ・ギホ 小西直子 訳

四六判 / 344 頁 / ISBN978-4-7877-2023-8 / 定価 2,200 円+税  
装幀: 大倉真一郎

「聞いてくれたまえ。これは全斗煥將軍が国を統べていた時代の話だ」ノワール映画の我らが主人公[独裁者]と、その兄に怯える〈舎弟たち〉。時代の狂気のなかで破壊されたタクシー運転手ナ・ボンマンの人生を、軽妙洒脱、ユーモラスな文体で、悲喜劇的に描ききった話題作。1980年に全斗煥が大統領に就任すると、大々的なアカ狩りが開始され、でっち上げによる逮捕も数多く発生した。そんな時代のなか、身に覚えのない国家保安法がらみの事件に巻き込まれたタクシー運転手ナ・ボンマンは、政治犯に仕立て上げられてしまい、小さな夢も人生もめちゃくちゃになっていく。軍事政権下における「国家と個人」「罪と罰」という重たいテーマを扱いつつも、スピード感ある絶妙な語り口、人間に対する深い洞察、魅力的なキャラクター設定で、不条理な時代に翻弄される平凡な一市民の人生を描いた悲喜劇的な秀作。韓国でロングセラー。渾身の本格長篇、待望の邦訳！



# ぼくは幽霊作家です

キム・ヨンス 橋本智保 訳

四六判 / 272 頁 / ISBN978-4-7877-2024-5 / 定価 2,200 円+税  
装画: イシサカゴロウ 装幀: 北田雄一郎

ことばでは言えない生のために——。現代韓国を代表する作家キム・ヨンスが、自らを物語ることばを持たなかった者たちの語りえない声に耳を澄まして書き上げた短篇集。九本の短篇からなる本作には、王朝末期の朝鮮に赴く米国人、伊藤博文を暗殺した安重根、1930年代の京城（ソウル）、朝鮮戦争に従軍した中国人民志願軍兵士、そして現代のソウルに生きる男女などがモチーフとして登場する。時代と空間はめまぐるしく変遷するが、作家はあくまで個人の内面に焦点を当て、「幽霊作家（ゴーストライター）」として一人称の語り口に徹して物語る。

キム・ヨンスの作品は、歴史に埋もれている人間を描くことで歴史に挑もうとする。つまり、小説によって画一的な〈歴史〉を解体し、〈史実〉を再構築しようとする野心に満ち、歴史書と小説のどちらがより真実に近づけるのかを洞察する壮大な実験の場としてある。



# ギター・ブギー・シャッフル

イ・ジン 岡 裕美 訳

四六判 / 256 頁 / ISBN978-4-7877-2022-1 / 定価 2,000 円+税  
装画: ホン・ウンジュ&キム・ヒョンジェ 装幀: 丸山有美

朝鮮戦争の傷跡が色濃く残る1960年代初頭のソウル。戦争で孤児となった主人公キム・ヒョンの心の友は、米軍のラジオ局から流れてくる最新のポップスだった。どん底の生活を続けていたヒョンは偶然的な積み重ねで、憧れの龍山米軍基地内のクラブステージにギタリストとして立つことに——。新世代の実力派作家が、K-POPのルーツである60年代音楽シーンの熱気と混沌を鮮やかに描ききった音楽青春小説。米軍内のクラブで演奏するためのオーディションシステムやよりステータスの高いステージに立つためにミュージシャンらが繰り広げる熾烈な競争、当時の芸能界に蔓延していた麻薬と暴力についての描写はリアリティがあり、当時の風俗を知る貴重な資料として読み解くこともできる。第5回「秀林文学賞」（2017年）受賞作。

◎ いたうせいこう氏評（「朝日新聞」2020年6月6日）「並みいる韓国文学の翻訳書の中に、またひとつ毛色の違った小説が現れた。」



# きみは知らない

チョン・イヒョン 橋本智保 訳



「あなたはわたしを知らない、だれもわたしを知らない」——。  
『ミスウィートソウル』『優しい暴力の時代』などで知られ、現代の都市生活者の孤独や心の機微を描く作家として絶大な支持を集める作家チョン・イヒョンの意欲的な長篇作。  
本作で描かれる一家の継母は、韓国生まれ韓国育ちの華僑二世。山東省出身の父親に家の中で韓国語を話すことを禁じられて育った彼女は、かつて台湾の大学に留学し、台北に恋人がいた。  
物語の舞台の中心はソウルであるものの、登場人物それぞれのアイデンティティの揺らぎや個々に抱えた複雑な事情、そしてその内面を深く掘り下げ、現代社会と家族の問題を鋭い視線で、地勢的にも幅広く描いた作品。韓国でロングセラー。

# 白石 (ペクソク) 評伝

アン・ドヒョン 五十嵐真希 訳



白石 (1912-1996 頃) は日本統治下の 1930 年代に忘れられつつあった古語や方言を駆使し、朝鮮の原風景を詩でよみがえらせた詩人である。朝鮮半島北部で生まれ育った白石は、朝鮮戦争勃発後も北に残ったが、北朝鮮ではイデオロギー論争に負け、詩人としては活躍できなかった。韓国において「越北 (在北) 詩人」は発禁処分の対象であり、長らく白石に関する本は出版されなかったが、民主化に向かう過程で徐々に解禁となり、1987 年の詩集刊行後、爆発的な人気を得るようになった。韓国で好きな詩集のアンケートを行えば、白石の詩集『鹿』は尹東柱の『空と風と星と詩』などとともに必ずベスト 5 に入る。尹東柱は自ら書き写した『鹿』を座右に置いていたといい、キム・ヨンスら現代の作家たちに白石の詩が与えた影響も計り知れないものがある。本書は、白石を敬愛してきたアン・ドヒョンが、詩人ならでの洞察力と格調高い文章によって白石の生涯とその詩の世界を丁寧に再構成し、高く評価された評伝であり、版を重ねている。分断後の作品も収録。

# 我らが願いは戦争

チャン・ガンミョン 小西直子 訳



『韓国が嫌いで』を発表して話題を呼んだ新聞記者出身の作家、チャン・ガンミョンによる長篇作。  
北朝鮮の金王朝が勝手に崩壊する——。韓国で現在、最善のシナリオとみなされている状況が“現実”になった後の朝鮮半島という、仮想の世界を舞台に繰り広げられる社会派アクション小説。  
仮想の現実とはいふものの、朝鮮半島の実情や人々の認識、社会的背景がよく反映されていて読みごたえがあり、元記者ならではの簡潔明瞭かつ疾走感あふれる文章とストーリー展開で、大部の長篇ながらも読者を一気に引き込む力を持つ力作。  
2016 年、朝鮮日報「今年の作家賞」、東亜日報「今年の小説賞」などを受賞した話題作。

# イスラーム精肉店

ソン・ホンギョ 橋本智保 訳



物語は、朝鮮戦争に参戦した後、韓国に残ることになったトルコ人が、心と身体に深い傷を負った孤児の少年を養子に迎えるところから始まる。信仰篤いムスリムであるにもかかわらず豚肉を売る仕事に従事するトルコ人、親戚を射殺した後悔から故郷に戻ることができないギリシャ人、戦争で一切の記憶を失ってしまった韓国人の中年男、暴力をふるう夫から逃げてきた女性……。  
作家は、ソウルのモスク周辺のみずばらしい路地に集う多様な人物を登場させ、戦争という集団的狂気が残した傷と暴力の凄まじいトラウマとその後遺症を露わにするが、やがて少年が苦しめられ続けた深い傷を癒し、逞しく成長していく過程を流麗な文体で描くヤングアダルト小説。「老斤里平和文学賞」受賞作。韓国図書館協会優秀文学図書。

# 海女たち

愛を抱かずしてどうして海に入られようか

ホ・ヨンソン詩集 姜信子・趙倫子 訳

四六判／240頁／ISBN978-4-7877-2020-7／定価 2,000円＋税

装画：中井敦子 装幀：納谷衣美



語りえない女たちの声よ、届け。

海女は水で詩を書く――。

日本植民地下の海女闘争、出稼ぎ・徴用、解放後の濟州四・三事件。濟州島の詩人ホ・ヨンソンが、現代史の激浪を生き抜いた島の海女ひとりひとりの名に呼びかけ、語りえない女たちの声、愛と痛みの記憶を歌う祈りのことば。

◎ 金時鐘氏評（「現代詩手帖」2020年8月号）

「日本の詩には見られない、まねな詩的リアリズムをここに見る」

◎ 高橋咲子記者（「毎日新聞」2020年6月14日）「詩集に満ちるのは、呼吸のリズム。海に潜り、呼吸を整え、また潜る。海女たちの身体に刻まれた記憶が、詩のリズムの中で読者の体も揺らす」

# 目の眩んだ者たちの国家

キム・エラン／パク・ミンギユ／ファン・ジョンウンほか 矢島暁子 訳

四六判上製／256頁／ISBN978-4-7877-1809-9／定価 1,900円＋税

装幀：北田雄一郎



◎ ファン・ジョンウン「どれほど簡単なことなのか。希望がないと言うことは。この世界に対する信頼をなくしてしまったと言うことは。」

◎ パク・ミンギユ「私たちは、生まれながらに傾いていなければならなかった国民だ。傾いた船で生涯を過ごしてきた人間にとって、この傾きは安定したものだった。」

傾いた船、降りられない乗客たち――。

国家とは、人間とは、人間の言葉とは何か。韓国を代表する気鋭の小説家、詩人、思想家たち12人が、セウォル号の惨事で露わになった「社会の傾き」を前に、内省的に思索を重ね、静かに言葉を紡ぎ出す。「セウォル号以後文学」の原点。

◎ 中島京子氏評（「毎日新聞」2018年12月16日）

「傾いた船に乗って沈もうとしているのは私たちだと感じている昨今、その苦しみを噛みしめながら書かれた言葉に打たれる」